

自分を傷つけずにはいられない ～若者の自殺予防のためのヒント～



リストカットなどの自傷行為は、必ずしも自殺と同義ではありませんが、「生きづらさ」のサインであり、将来における自殺リスクにつながる行動です。しかし、さまざまな誤解や偏見にさらされ、一般の人たちはもとより援助者にも適切に理解されていません。本講演では、自傷行為を繰り返す若者を正しく理解し、援助するための提案をさせていただきます。

無料

2015 年
10 月 7 日
水

時間 14:00～16:00
(開場 13:30)
会場 ひの煉瓦ホール
(市民会館小ホール)
定員 200 名 (先着順)

講師 松本 俊彦 氏



国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所薬物依存研究部部長
自殺予防総合対策センター副センター長

「薬物依存の理解と援助」(金剛出版, 2005)、「自傷行為の理解と援助」(日本評論社, 2009)、「アディクションとしての自傷」(星和書店, 2011)、「薬物依存とアディクション精神医学」(金剛出版, 2012)、編著としては「中高生のためのメンタル系サバイバルガイド」(日本評論社, 2012)、「くすりにたよらない精神医学」(日本評論社, 2013) など。

他に自傷、自殺予防、薬物依存に関する訳書多数。

